進路指導室へようこそ２

前橋女子高校進路指導部

令和６年度 MJ 進路通信　第１２号

令和６年６月３日（月）発行

■教育実習生紹介（２）

前回の通信で掲載しきれなかった実習生のコメントを紹介します。

Ｋ先生　①情報、２年７組、専修大学商学部マーケティング学科マーケットアナリティクス専攻です。
②音楽マーケティングがしたくて、マーケティングを専門に学べる大学に行きたかったのでこの大学にしました。大学では音楽サブスクの研究をしています。
③偏差値だけでなく自分のやりたいことができる大学も視野に入れると良いと思います。受験頑張ってください！

Ｓ先生　①国語、２年１組、群馬県立女子大学文学部国文学科
②私は「小説」「物語」というものが幼い頃から大好きだったため、それらについて深く学ぶことのできる学部・学科を志望していました。また、群馬県内から通うことのできる国公立大学を希望しました。県立女子大はその条件にぴったり合う学校だったため選びました。また、研究しているテーマは、日本近代文学における女性同性愛表象です。
③前橋女子高校での生活はどうでしょうか。勉強や部活動のこと、人間関係や将来への選択が目の前にあり、頭がいっぱいになることもあるのではないでしょうか。そのような中でも、皆さんにはぜひ視野を広く持ち、さまざまな事柄を見て、感じて、体験してほしいと思います。「人生には無限の過ごし方の可能性がある」とは、よしもとばなな氏の随筆「珊瑚」の一節ですが、皆さんにも、皆さんだけの人生の過ごし方の可能性を、三年間の高校生活を通してたくさん発見してほしいと願っています。

■科目選択の下調べは、できていますか？

１・２年生は先週のＬＨＲで次年度の科目選択説明会がありました。来年度選択する科目（１年生は文理選択を含め）は最終的には受験時に使用する科目に直結します。「まだ急には決められないよ」という人も多いと思いますが、だからこそ、<u>この時期に</u>きちんと**「自分が何を目指すのか」「そのためにどんなことを学べば良いのか」**を考える時間を確保してほしいと思います。３年生は科目選択はもうありませんが、２学期以降の模試では**「どの教科を受験するのか」**をしっかり確認しておく必要があります。第一志望に必要な科目だけしか見ていないと、予定通りに行かなかったり気持ちに変化があったときに対応できなくなる可能性もあります。同じような大学でも、受験科目に違いがあれば簡単に志望校を変えるということができません。受験に関するあらゆる可能性を想定し、独りよがりの決断にならないようにしたいですね。担任や教科の先生ともよく相談し、かつ自分でよく調べて選択の準備をしてください。

■オープンキャンパスに、行ってみよう

現在多くの大学からオープンキャンパス（OC）の案内が届いています（一部は進路指導室前に掲示してあります→）。これから夏休みにかけて各大学の OC が盛んになりますが、その大学の雰囲気を知るには非常に有効な機会です。ここ数年コロナ対応でオンラインでの実施や人数限定のものが多かったですが今では多くの大学が通常の対面開催で実施しています。興味のある大学については是非 OC に足を運んでみることをお勧めします。大学の教育内容はもちろんですが、キャンパスや学生の雰囲気、街の様子なども見ることで大学というものをもっと身近に感じられると思います。マナビジョンのサイトなどで OC の情報を入手できますので、部活や補習の日程と調整しながら OC の計画をたててみましょう（都合があえばチーム OG の協力も依頼できます）。

また、事務室のご厚意で、進路指導室前の廊下に掲示板を２か所増設していただきました。掲示板では、大学から寄せられた様々な案内を掲示しています。職員室から見て最も手前の掲示板には、主に奨学金等に関する情報を掲示しました（奨学金制度は多くの大学で採用しており掲示してあるのはその一部です）。また、その奥にはオープンキャンパス情報と、特別入試のビラを掲示しています。進路指導室を訪れた際などにチェックしてみましょう。

奨学金関係の掲示

特別入試等の入試紹介

■「大学入試を知る」（第２回：入試の選抜方式は、いろいろある）

大学入試には、さまざまな入試方式があり、大きく分けると「一般選抜」と「推薦型選抜」があります。「一般選抜」は、主に高校で学習した科目に関する学力試験で行われ、ほとんどすべての大学で実施しています。国公立大学の一般入試では、１月に実施される「大学入学共通テスト」と、２～３月に実施される個別試験の結果を踏まえて合否が決まります。受験科目や配点などは大学ごとに異なり、いわゆる「難関大」と呼ばれる大学ほど個別試験の配点が高く、必要な受験科目数も多い傾向にあります。学部によっては、小論文や面接が課されることもあります。私立大学の一般選抜は、大学独自の問題で入試を行うものと、共通テストの結果で合否が判断される（いわゆる「共通テスト利用入試」）があります。受験方式ごとに定員があり、同じ学部でも方式により難易度が変わることもあります（今の私立大学の入試方式は多岐にわたり、違いや特徴をしっかり把握しておく必要があります）。

「学校推薦型選抜」は一般選抜と並ぶ大学入試の柱の一つです。一般選抜との違いは、出身高等学校長の推薦を受けないと出願できない、という点です。出願にあたっては、「調査書の学習成績の状況○以上」「○浪まで」といった出願条件が設定されている場合もあり、条件をクリアしないと出願できません。「学校推薦型選抜」には、様々なタイプの選抜がありますが、大きく分けて「公募制」と「指定校制」の２タイプに分かれます。「公募制」は、大学の出願条件をクリアし、出身高等学校長の推薦があれば受験できる選抜です。一方の「指定校制」は大学が指定した高校の生徒を対象とする選抜です。指定校入試は、学校の推薦を受ければ必ず合格できるイメージがありますが、合格を保証していない大学もあり、また、入学後の大学生活の取り組みにも（母校のお墨付きをもらって行くわけですから）それなりの責任が生じます。大学での学習状況なども定期的に母校に報告があります。

「総合型選抜（かつての AO 入試に相当）」とは、エントリーシートなどの提出書類のほか、面接や論文、プレゼンテーションなどを課し、受験生の能力・適性や学習に対する意欲などを時間をかけて総合的に評価する入試方式です。他の入試方式と比べ、「高い学習意欲」「学びへの明確な目的意識」が選抜基準として重んじられているため、選抜方法もその点が判断できるような内容となっています。出願時に受験生自身が作成して提出する書類が多いことも特徴です。早いところだと１学期のうちからエントリーが始まるところもあります。

いずれの試験も原則的には「その学校を第一志望とし、合格したら入学する意思のある生徒」が対象となりますが、それぞれ長所短所、向き不向きがあり、自分にあった選抜方式を考えておくことが重要です。「早く楽になりたいから」「とりあえず受かりそうなところに」出願するような受験になると、仮に合格しても入学後に大きなミスマッチを生じることもあります。